

2020年度埼玉県立大学・大学院入学生の皆様への知事祝辞

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。自分の夢の実現に向け、新たな一步を踏み出された皆さんに、心からお祝い申し上げます。

また、これまで皆さんを温かく見守られてこられた御家族の皆様のお喜びもひとしおのことと存じます。誠におめでとうございます。

埼玉県立大学は、埼玉県の保健・医療・福祉の分野で活躍する人材の育成を目的として、1999年に開学しました。以来、これまでに卒業された8000人を超える皆さんの先輩方は、県内の医療機関や福祉施設などでリーダーとして目覚ましい活躍をされています。皆さんにも73万県民の大きな期待がかかっています。

現在、世界各地で猛威を振るっている新型コロナウイルスについては、本県としても先手先手の対応を重ね、感染拡大防止などに全力を尽くしておりますが、何よりも保健医療福祉の現場の方々の献身的な尽力なしに効果を上げることはできません。未来の逸材となる皆さんにおかれましても、このことを改めて胸に刻んでいただきたいと思います。

さて、私は昨年8月の知事就任以来、県民の皆様のお考えを直接伺う「どこでも知事室」を実施しており、昨年11月には埼玉県立大学にお伺いしました。埼玉の未来を担う学生の皆さんから今後の保健医療福祉の在り方について、実習などの体験に基づいた貴重な御意見をお聞きし、大変心強く思いました。新入生の皆さんも是非日々の学びの中で問題意識を養い、実践に努めていただければと思います。

人口増加が続いてきた埼玉県も間もなく人口減少社会へ突入します。後期高齢者人口は全国一の速さで増加しており、医療や介護の需要が急激に増大することが見込まれています。

こうした中、県では、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築を進めています。このシステムを円滑に運営するためには、保健医療福祉の多様なサポートが不可欠であり、そうしたサービスを担える人材の育成が強く求められています。

埼玉県立大学では、多様な分野の専門職が協働して、利用者や患者の課題解決に取り組む「専門職連携教育」に力を注いでいます。

将来、地域社会を支える人材として活躍が期待されている皆さんには、それぞれの現場で「ワンチーム」を形成することを目指し、専門知識や技術の習得だけでなく、多様な人々と連携できる力を磨き高めていただくことを期待しています。そして、埼玉県で活躍されることを願っています。

結びに、これから始まる学生生活が、皆さんにとって充実した、実り多いものとなることを心から祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

2020年4月

埼玉県知事 大野 元裕